

# できることから 始めよう

只見中学校1年生

ますだ つかさ  
増田 司



みなさんはSDGsという言葉を知っていますか？SDGsとは、世界のリーダー達によって決められた、2030年までに達成すべき国際社会の目標です。

僕が通う只見中学校では、SDGsについて勉強しています。僕たち1年生はこれまでに、恵みの森に行つて只見町の自然の豊かさを見たり、学校に植えたコキアを使つてほうきを作つたりしました。そして、学校全体では、17つある目標の中の14番目である、「海の豊かさを守ろう」について学んでいます。その取組として、学校全体で新聞紙エコバッグ作りをしています。新聞紙エコバッグは、レジ袋の利用を減らすことを目的にして、3年生が始めました。昨年の夏休みには町内で新聞紙エコバッグ作りの講習会を行いました。実際に僕も教える側として参加しました。こういった新聞紙エコバッグの取組は、福島県内外からも注目されているので、もつと多くの人に広がつて行けば、海洋ゴミとなるプラスチックゴミを減らすことができると思います。

僕がこのような学習をしている中で学んだことは、海洋ゴミが年々増えているということ、そして、自分たちの生活も海洋汚染につながるということです。

一見、只見町はあまり海に関わりがなく只見町と海洋汚染は関係がないように思われますが、只見町には大きな川があります。川の水は最終的に海に流れ着くので、只見町の川が僕たちの生活で汚れてしまうと、海洋汚染につながつてしまうのです。

もし海へのゴミの流出がこのまま続いてしまうと、2050年までに海の魚の数より海洋ゴミの方が多くなると言われています。それを防ぐために誰にでもできることは、買い物にエコバッグを持つていくこと、マイボトルを使うこと、小さなゴミを拾うことなど、たくさんあると思います。

もし仮に、世界中の人々がゴミを1つ拾うだけでも、地球から約70億個のゴミがなくなるようになります。難しいことではなく、できることから始めることが大切なのだと思います。

僕も、学校でSDGsについて

学んでから町のゴミ拾いに参加をしたり、紙パックの飲み物を買つたりなど、少しずつ自分の生活を変え始めました。少し大変な心がけですが、町がきれいになることを思うと、やりがいを感じられて、また続けたいと思えます。

最後になりますが、僕が皆さんに伝えたいことは、できることから始めることが大切だということです。環境問題だけではなく、日常生活から意識してゴミを減らす工夫をしたり、節水・節電を心がければ、持続可能な世界になつていくと思います。これからも、只見中学校の一員として、先輩方が築いてくださった伝統を受け継ぎ、後輩達へと繋いでいきたいと思えます。



▲只見中学生が作成したエコバッグ

# 受け継ぐことと 繋いでいくこと

只見中学校2年生

おぬま

かずは

小沼 和葉



皆さんはSDGsのことを知っていますか？SDGsとは2015年に国連総会で採択された、

2030年に向けて全世界で達成を目指す目標です。3年生の先輩方はSDGsの目標の内、14番目の「海の豊かさを守ろう」を中心として学習や活動に取り組んできました。例えば、新潟の海のゴミ拾い、プラスチックの削減と新聞紙のリサイクルとして新聞バッグ作りなど、自分たちができることを考えて、行動していました。

そんな先輩たちの姿を見て、今後は自分たちが先輩たちの意思を受け継いで、SDGs達成に向けた取り組みをしていかなければならないと感じました。

そして、私たち2年生も海を守るための学習をしながら、新しい取り組みを始めました。それが、只見町の資源であるブナ林の間伐材を使ったバッジ作りです。SDGsには、17の目標それぞれに色割り当てられており、その17色で作られたカラーホイールというものがあります。私たちはそのカラーホイールがデザインされた

バッジをブナの間伐材で作成し、SDGsの活動を広げるために活用しています。

また、町や県に広がりつつある私たちの活動をもっと多くの人に知ってもらうための取り組みも始めました。それが、社会科の授業の中で行った、東京の中学校との交流です。テレビ電話を使って東京の板橋第三中学校と、お互いが住む町について情報交換をしたり、只見中学校で行っているバッジ作りを紹介したりしました。

それだけではなく、私たちの学年では、かつて只見町を襲った集中豪雨災害の経験から、SDGsの13番目の目標である、「気候変動に具体的な対策を」について、防災・減災の視点で学習を始めました。まずは地球温暖化について事前学習を行い、温暖化の原因や温暖化の影響を学びました。その中で感じたことは、私たちの生活の中にも、地球温暖化の原因がある、ということでした。また、12月には柳津の地熱発電所や、東北電力奥会津水力館「みお里」を見学し、二酸化炭素を

排出しない、クリーンエネルギーなどを学習しました。今後はもっと本格的に学習が進んでいくので、頑張っていきたいです。

最後に、13番目の「気候変動に具体的な対策を」について学習した内容をふまえて、未来にないでいきたいことは、二酸化炭素の排出を減らすための手段を考えて取り組むということ、そしてそれを後輩や家族、そして町の人達に広げることです。一人一人の小さな力をつないで、大きな力に変えていけるようにがんばります。



▲ブナの間伐材を利用したカラーホイールバッジ

# かりる責任、 かえす責任

只見中学校3年生

おおたけ みおう

大竹 未桜



私たちが住んでいる地球にはたくさんさんの問題があります。私が考える問題は地球温暖化と海洋プラスチックです。

私たちの学校では海洋教育として新潟の海へ行きゴミ拾いをしてきました。私はその海に落ちていたゴミの多さにとっても驚きました。また、海外からのゴミが落ちていたことにもとても驚きました。1時間位でしたが、とても多くのゴミが拾えました。この状況を生みだした私たち人間が変えなければいけないと思い、クラスで話し合いました。するとインターネットで紹介されていた、新聞紙で作る新聞紙バッグを先生と見つけました。新聞紙を使ってバッグを作ることでも今問題になっているレジ袋削減につながると考えました。最初は私たちのクラスで活動していましたが、今では全校生で活動を行っています。町内のお店に私が作った新聞紙バッグをおいてもらったり、町内外の人からも応援してもらえるようになりました。

そして私たちが使い、作っている新聞紙はリサイクルによって

きた新聞紙だと知りとても驚きました。普段あまり紙リサイクルについて考えたことがなかったので隣町にあるスーパーマーケットにある常設のリサイクルコーナーに行きました。今まで気にしなかつたのですが、チラシや新聞紙、段ボールなどがたくさんあり、想像していた以上にたくさんの方がリサイクルをしています。

それから、もつと紙リサイクルについて知りたいと思って、調べた結果、私たちが生活している中には、授業で配られるプリントや本、トイレトペーパーやティッシュなど身の回りには紙リサイクルによって生まれ変わった資源がたくさんあることを知りました。

私は、再利用することも大切ですが、再資源化することも大切なんだと、この体験を通して感じました。自分たちが使った物を資源に戻して利用することはSDGsの12番、「つくる責任つかう責任」にも当てはまると思います。その他にも、できることがあるとすれば、それは物を大切に使うことだと思います。例えば、

割ばしを使うのではなくマイはしを使うようにすること、ペットボトルを買うのではなくマイボトルを持つようにするなどあげられます。つまり、なるべくゴミを出さないようにすることが大切だと思います。

加えて、ここまで私は物の使い方について考えてきました。しかし、それと同じくらい物づくりでもゴミを減らすための工夫はできると思います。物づくりをする人と物を使う人の両方がゴミを減らし、地球温暖化をくい止めることを意識していかなければなりません。

最後に、私たちは今、祖先たちが残してくれた様々な資源を借りて豊かな生活を送っています。これからの生きる私たちは、未来の地球を生きる人たちへ返していかなければなりません。それが「持続可能な社会」を作ることになります。その意識を自分でも持ち続け、後輩たちや町の方々、もつと多くの方々に伝えていきたいと思います。